

目次

序

発刊によせて

瀬戸町長 阿部 茂久  
瀬戸町議会議長 福島 朝行

第一編 自然

第一章 位置と面積

第一節 位置

一 本町の位置

二 人文的位置(交通)と区域

第二節 面積

一 総面積

二 地目別面積

第二章 戸数・人口

第一節 世帯人口の移推

第二節 年齢別人口の構造



第三章 地形・地質

第一節 地形

一 概説

二 地形分類

三 海岸地形と海底地形

第二節 地質

一 概要

第三節 土壌

一 土壌生成

二 瀬戸の土壌

第四節 応用地質

第四章 気象・自然災害

第一節 概説

第二節 気温

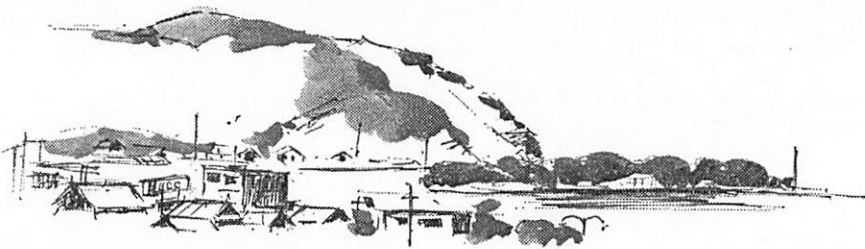
第三節 降水量

第四節 自然と災害

一 地すべり

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----



二 地震と津波	三
三 台風	四
四 平安後期以後の地域の災害	五
五 主な災害年代表	五

## 第五章 生物

第一節 植物	六
第二節 動物	六
一 獣類	七
二 鳥類	七
三 魚貝・海藻(草)類	七
四 昆虫類	七

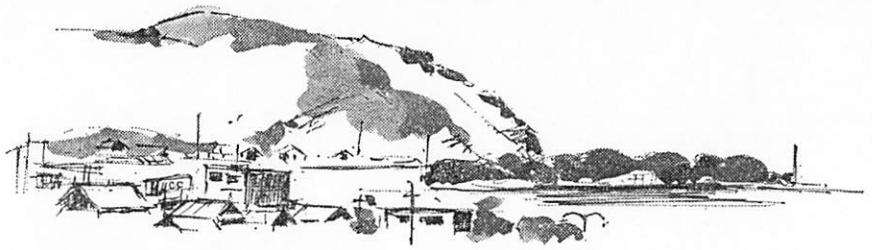
## 第二編 歴史

### 第一章 先史時代

第一節 石器時代の二系統	八
第二節 黒曜石石器	八
第三節 人類と先土器文化	八



第四節 佐田岬半島の遺跡	八
第五節 当時の自然のなかでのたくましい生活	七
第六節 農耕文化の開始	六
一 稲作のはじまり	六
二 弥生前期の人びとの生活と文化	六
第七節 金石併用時代の文化	六
第二章 古 代 (大和朝時代)	七
第一節 古書に見えたる伊予国	七
第二節 南予の土豪	九
第三節 別・国造の創設及び氏族の分布	一〇
第四節 上古の豊予海峡と日振島	一〇
第三章 古 代 (律令撰定及び奈良・平安時代)	一〇
第一節 律令の撰定	一〇
第二節 海賊の跳梁	一三
第三節 平家と矢野荘	一五
一 忠光寺	一七
二 平家の落人と矢野荘	一八



第四章 中 世(鎌倉・吉野朝・室町時代)……………100

第一節 宇和郡の統治……………100

一 橘 氏……………100

二 西園寺……………100

三 西園寺一五将……………100

第二節 萩森殿 宇都宮……………103

一 萩森城……………103

二 萩森城落城と房綱の死亡……………107

第三節 戦乱下の宇和郡……………109

第四節 中尾城・山崎城・土居城……………109

一 中尾城……………109

二 山崎城・土居城……………113

第五節 郷土誌に観る古里……………113

一 三机村郷土誌(明治四十四年刊)……………113

二 四ツ浜村郷土誌(明治四十五年刊)……………116

三 三机郷土史(昭和七年刊)……………116

四 西宇和郡社会史概説(昭和二十七年刊)……………116



第五章 近 世……………115

第一節 宇和島城主の変遷……………115

一 小早川隆景……………115

二 戸田勝隆……………115

三 藤堂高虎……………116

四 富田信濃守信高……………116

五 伊達秀宗……………116

第二節 富田信濃守と堀切工事……………116

一 富田信濃守の生い立ち……………116

二 塩成堀切工事……………116

三 その後の堀切工事……………116

四 富田信濃守改易の事情……………116

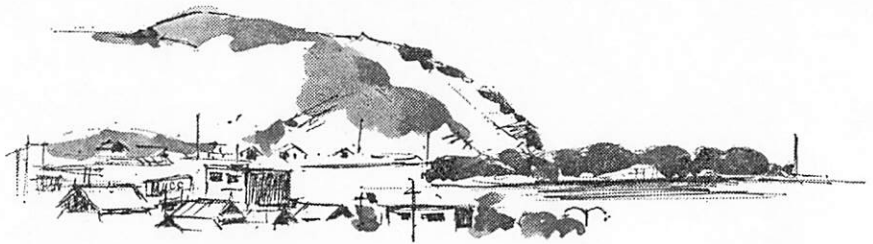
五 改易後の富田信濃守……………116

第三節 宇和島藩の行政……………117

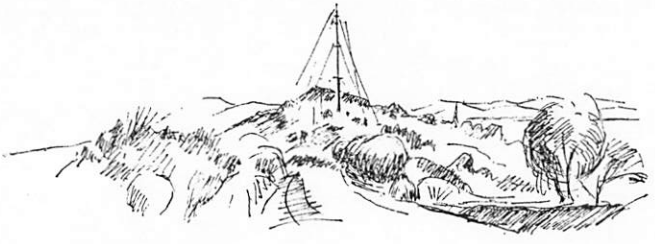
一 宇和島藩の成立……………117

二 領内区画と支配組織……………117

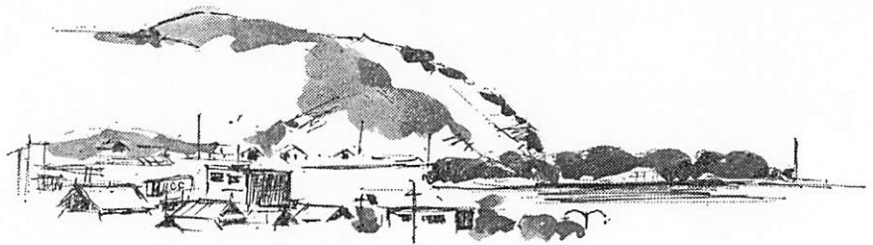
三 検 地……………117



四	くじ持制	101
五	貢租	104
六	その他の雑税	100
第四節 村方三役		
一	庄屋	101
二	組頭	101
三	横目	104
四	小頭	107
五	五人組	107
第五節 三机浦の漁業		
一	宇和島藩の漁業政策	100
二	三机浦の漁業	102
三	近代の漁業	104
第六節 参勤交代と三机		
一	参勤交代制度	100
二	宇和島藩の実態及び経路	101
三	三机浦の責務と対応	104
四	塩成組頭歩み板の件	104
五	歴代藩主と三机	104



第七節 諸国巡見使		
一	巡見使制度	101
二	宇和島藩における巡見使	104
第八節 三机番所・御仮屋		
一	番所の創設	104
二	番所の規模設備	107
三	三机番所の任務	107
四	三机番所役人人事	107
五	三机御仮屋	107
第九節 八幡神社・長養寺		
一	八幡神社	100
二	長養寺	107
第十節 伊能忠敬測量日記		
第十一節	三机浦の製蠟	107
第十二節	三机浦の牛馬	107
第十三節	三机浦の出来事	100
一	難船記録	100
二	三机浦の疫病	104



三	三机古地図	三〇七
四	嘉永大地震	三〇九
五	舌間浦道土役・竜牛の三机記録	三一一
六	薩州藩主田原直助の佐田岬紀行	三二二
七	大久保市蔵の三机寄港	三三三
第十四節	長州征伐と三机	三五五
第十五節	三机浦の交通	三六九

### 第三編 行政

#### 第一章 行政の変遷

第一節	明治維新後の移り変わり	三七一
一	版籍奉還	三七一
二	廃藩置県	三三三
三	愛媛県の誕生	三四三
四	戸籍法の制定	三四三
五	大小区制の実施	三四六
六	地租改正	三四七
七	郡区町村編成法	三四九



第二節	市制・町村制の公布	三五二
第三節	旧村の沿革	三五五

#### 第二章 町制施行

第一節	町村合併	三五三
一	合併の機運	三五三
二	合併促進協議会の設置	三五四
三	廃置分合を必要とした理由及び経緯	三五六
四	新町名の選定と新事務所的位置	三五七
五	三机村と四ッ浜村の合併議決	三五八

#### 第二節 瀬戸町の成立

一	町の誕生	三六三
二	行政機構と各種委員会	三六三
三	区長制度	三六六
四	町章・町花・町木の制定	三六七
五	瀬戸町名誉町民	三六九

#### 第三節 選挙と議会

一	選挙制度の変遷	三六三
二	瀬戸町の選挙	三六九



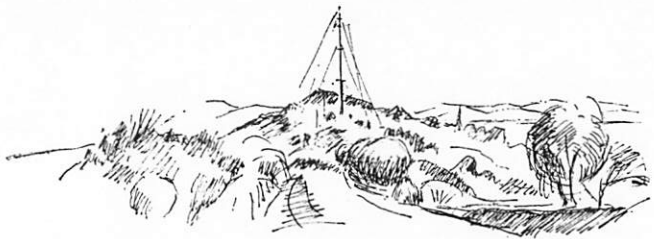
三 選挙管理委員会	四九〇
四 議会と議員	四九一

## 第二章 財政

第一節 町の財政	四九七
第二節 監査委員	五〇三
第三節 町有財産	五〇四

## 第四章 民生

第一節 社会福祉	五〇七
一 社会福祉の施策	五〇七
二 生活保護法の施行	五〇八
三 福祉機関	五〇九
四 福祉施設	五一二
五 福祉事業	五一四
第二節 国民年金	五一二
一 拠出制年金	五一三
二 福祉年金	五一三
第三節 同和对策事業	五一五



## 第四節 医療と国民健康保険

一 医療機関	五一三
二 国民健康保険	五一五

## 第五節 保健衛生

一 衛生	五一六
二 風土病(フィラリア症)	五一九
三 保健婦と保健活動	五二四
四 母子健康センター	五二六

## 第六節 環境衛生

一 ごみ処理	五二七
二 し尿処理	五二八
三 隔離病舎	五三九
四 火葬場	五四〇

## 第七節 水道

一 簡易水道	五五二
二 南予水道用水供給事業	五五五

## 第五章 治安と消防

第一節 治安	五五九
--------	-----



第四編 産業・経済	六三
第一章 概況	六三
第二章 産業経済の変遷	六五
第一節 概況	六五
一 封建時代	六五
二 明治・大正時代	六六
三 昭和時代	六七
第二節 農業の近代化	六八
一 農業委員会	六〇
二 南予用水事業	六二
第三節 農業協同組合	六三
第四節 産業の人口分布と構造	六三
一 産業の人口分布と構造	六三
第五節 国土調査事業	六三
一 国土調査(地籍調査)の概要	六三
二 国土調査事業の実施方式	六三



一 警察制度の変遷	六二
二 町内の駐在所	六三
第二章 交通安全	六五
一 交通安全運動	六五
二 交通指導員	六六
三 運転免許証更新時講習の簡素化	六七
四 町内特別講習会の開催	六八
第三章 消防	六八
一 消防の沿革	六八
二 瀬戸町消防組織の変遷	六九
三 広域消防	七〇
第四節 司法登記所	七七
一 松山地方法務局瀬戸出張所の沿革	七七
第六章 兵事	七九
第一節 徴兵令と兵役	七九
第二節 戦争参加	八〇
第三節 郷土の部隊	八〇
第四節 戦没者	八〇





第三章 農 業 ..... 六九

第一節 農業人口と耕地面積 ..... 六九

第二節 農業の方法 ..... 七〇

第三節 農 産 物 ..... 七〇

一 麦類の栽培 ..... 七〇

二 甘藷の栽培 ..... 七一

三 果樹の栽培 ..... 七一

四 養蚕・製蠟・藍・葉たばこの栽培 ..... 七二

五 野菜の栽培 ..... 七二

第四章 畜 産 業 ..... 七三

第一節 農業経営と畜産業 ..... 七三

第五章 林 業 ..... 七四

第一節 概 況 ..... 七四

第二節 現 況 ..... 七五

第三節 森林組合 ..... 七五

第六章 水 産 業 ..... 七六



第一節 概 況 ..... 七六

一 瀬戸町の漁港 ..... 七六

第二節 漁業現況 ..... 七六

第三節 漁業協同組合 ..... 七六

第七章 鉱 業 ..... 七八

第一節 概 況 ..... 七八

第二節 現 況 ..... 七八

第八章 商 工 業 ..... 七九

第一節 概況と現況 ..... 七九

第二節 商 工 会 ..... 八〇

第三節 工 業 ..... 八〇

第九章 金 融 ..... 八一

第一節 概 況 ..... 八一

第二節 現 況 ..... 八二

第十章 交通・運輸・通信 ..... 八三

第一節 交 通 ..... 八三





- 一 陸上交通 ..... 七三
- 二 海上交通 ..... 七三
- 第二節 運 輸 ..... 七六
- 第三節 通 信 ..... 七六
- 一 概況と現況 ..... 七六

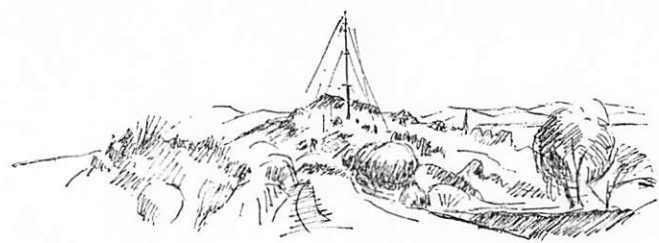
### 第十一章 電力・電波

- 第一節 電 力 ..... 七四
- 第二節 電 波 ..... 七四
- 一 同報無線 ..... 七五
- 二 瀬戸デッカ局 ..... 七五
- 三 防災無線電話 ..... 七五

## 第五編 教 育

### 第一章 学校教育

- 第一節 明治維新前後の教育 ..... 七五
- 一 寺子屋・私塾 ..... 七五
- 二 維新前寺子屋・手習師匠・郷学校・私学校の調査 ..... 七五
- 三 明治初期の教育 ..... 七五



- 第二節 明治期における主な教育制度の変遷 ..... 七六

- 第三節 大正・昭和初期の教育 ..... 七六
- 一 義務教育の徹底 ..... 七六
- 二 自由教育 ..... 七六

### 第四節 戦時下教育と国民学校

- 一 国民学校令 ..... 七六
- 二 教科 書 ..... 七六
- 三 不自由な学校生活 ..... 七六

### 第五節 戦後の民主教育

- 一 終戦時の教育 ..... 七六
- 二 新しい教育制度 ..... 七六
- 三 小・中学校の教育課程 ..... 七六
- 四 教育機器の導入と活用 ..... 七六

### 第六節 小・中学校の統合整備

- 第七節 学校給食 ..... 七六

- 一 戦前の学校給食 ..... 七六
- 二 戦後の学校給食 ..... 七六

- 第八節 各校の主な沿革 ..... 七六

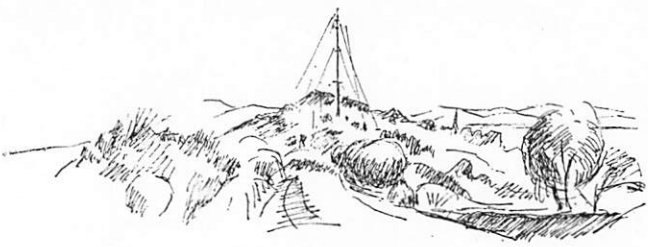


- 一 小学校 ..... 七三
- 二 中学校 ..... 八〇
- 第九節 実科女学校・青年学校沿革 ..... 八七
- 一 公立青年学校三机実科女学校 ..... 八七
- 二 三机村立三机青年学校・公立青年学校・三机村立三机  
実業学校 ..... 八三
- 三 四ツ浜村立四ツ浜青年学校 ..... 八七

## 第二章 社会教育

### 第一節 青年団

- 一 若連中、若衆組 ..... 八六
- 二 青年会 ..... 八六
- 三 青年団(男子) ..... 八六
- 四 処女会 ..... 八〇
- 五 女子青年団 ..... 八〇
- 六 青年団 ..... 八〇
- 第二節 婦人会
- 一 戦前の婦人会 ..... 八三
- 二 戦後の婦人会 ..... 八三



- 第三節 社会教育委員会 ..... 八三
- 第四節 公民館 ..... 八六
- 第五節 同和教育
- 一 同和教育の意義 ..... 八四
- 二 解放令とその後現状 ..... 八四
- 三 同和对策審議会答申 ..... 八三
- 四 瀬戸町同和教育協議会 ..... 八三
- 五 社会同和教育推進計画(昭和六十年) ..... 八四
- 第六節 文化財保護審議会 ..... 八四
- 第七節 青少年の健全育成 ..... 八七
- 第八節 社会体育 ..... 八六
- 第九節 瀬戸町体育協会 ..... 八三
- 第三章 教育委員会
- 第一節 教育委員会の歩み ..... 八五
- 一 公選制の教育委員会 ..... 八五
- 二 任命制の教育委員会 ..... 八五
- 第二節 教育委員会業務組織 ..... 八五
- 第三節 歴代教育委員 ..... 八五



第六編 宗教

第一章 神社

第一節 神社の変遷

第二節 神社

一 八幡神社(三机)

二 一宮神社(塩成)

三 八幡神社(足成)

四 客神社(大江)

五 神明神社(志津)

六 住吉神社(小島)

七 八幡神社(大久)

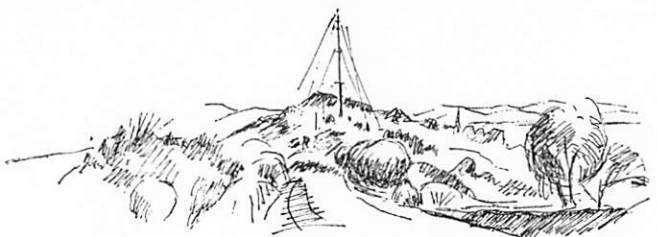
八 八坂神社(川之浜)

九 客神社(田部)

十六社神社(神崎)

第二章 寺院

第一節 仏教の変遷



第二節 寺院

一 長養寺(三机)

二 長松寺(大久)

三 八多喜寺(川之浜)

四 松寿院(田部)

五 持珠院(三机)

第三章 教派・神道・その他

第一節 教派・神道

一 天理教三机分教会

二 天理教四ツ浜分教会

三 瀬戸福音センター

第二節 その他

一 七面様

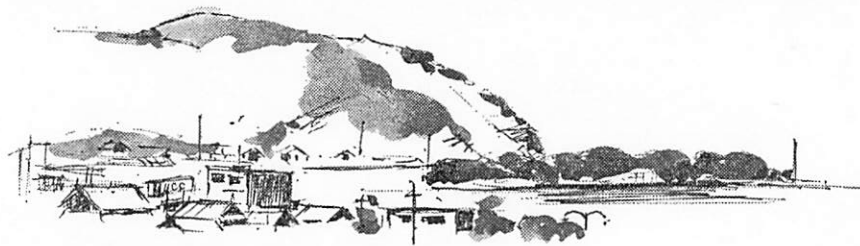
二 石鎚神社瀬戸遙拝所(三机)

三 姉姫神社(三机)

四 龍王神社(三机)

五 供養様(塩成)

六 先徳大師(塩成)



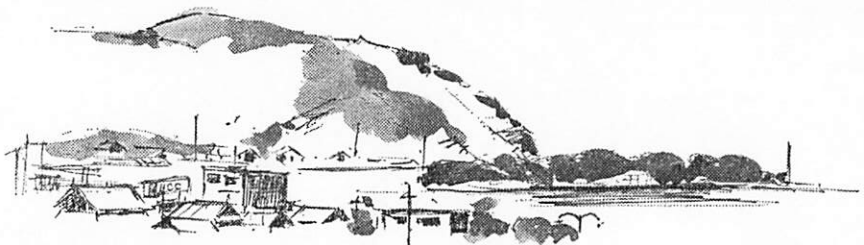
七 子安地藏(足成)	200
八 上脇の地藏様(足成)	201
九 志津の平家様(志津)	201
十 於幾世里大明神(大久)	201
十一 木舟神社(田部)	201
十二 大瀬の地藏様(神崎)	203
十三 小島の平家様(小島)	203

### 第七編 民俗・文化

第一章 町民の生活	205
第一節 沿革	205
第二節 農民の生活	207
一 西宇和郡社会史概説	207
二 愛媛県の歴史と風土の一部	208
三 社会生活	213
第二章 衣食住	216
第一節 衣	216
第二節 食事	217



第三節 住居	219
一 一間取り等	219
二 防護	220
三 庄屋、組頭の家屋	220
第三章 年中行事	223
第四章 郷土芸能	226
一 しやんしゃん踊り	226
二 五つ鹿	226
三 牛鬼	226
四 四つ太鼓	226
五 稚児の舞	226
六 相撲甚句	226
七 お神楽	226
第五章 民話と伝説	228
第一節 民話	228
一 命松(大江)	228
二 三つ切りにされたウワバミ(志津)	228
三 かきが谷の地藏(志津)	228



- 四 風はや(落) (志津) ..... 四六
- 五 赤岩 (志津) ..... 四七
- 六 馬の背(小島) ..... 四八
- 七 馬刀貝突き船とせいぞうさん(足成) ..... 四九
- 八 参勤交代と安蔵さん(足成) ..... 五〇
- 九 海賊と力自慢の大婆さん(足成) ..... 五一
- 十 鯛網・鯖網の「あばと針」(足成) ..... 五二
- 十一 ジャタンボ(高茂) ..... 五三
- 十二 行逢い裁面(田部) ..... 五四
- 十三 カワウソの恩返し(神崎) ..... 五五
- 十四 力自慢の兼助(高浦) ..... 五六
- 十五 田舎者の旅日記(塩成) ..... 五七
- 十六 お庄屋さんと使用人(塩成) ..... 五八
- 十七 篤農家と子狸(塩成) ..... 五九
- 十八 源太と六(大久) ..... 六〇
- 十九 それ押せそれ押せ(大久) ..... 六一
- 二十 弘法大師に愛された狸(大久) ..... 六二
- 二十一 かめがくぼ(大久) ..... 六三
- 二十二 老婆の石臼(佐市) ..... 六四



第二節 伝 説

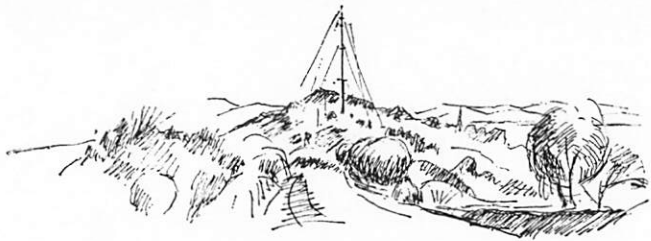
- 二十三 ホタルの道案内(高浦) ..... 六五
  - 二十四 チンチンド、カンカンド(大江) ..... 六六
  - 二十五 三七様(大江) ..... 六七
  - 二十六 地藏様に助けられた老婆(上倉) ..... 六八
  - 二十七 犬につかれた娘(松之浜) ..... 六九
  - 二十八 狸と歩いた女(松之浜) ..... 七〇
  - 二十九 三崎十三里(三机) ..... 七一
  - 三十 御幣かつぎ(三机) ..... 七二
  - 三十一 六艘堀と飛び上りの安さん(三机) ..... 七三
- 第二節 伝 説
- 一 夜泣き地藏(佐市) ..... 七四
  - 二 佐竹十郎(田部) ..... 七五
  - 三 へんど岩(田部) ..... 七六
  - 四 子安地藏様(足成) ..... 七七
  - 五 コイ姫(神崎) ..... 七八
  - 六 石仏様(塩成) ..... 七九
  - 七 神に祀られた狸さん(塩成) ..... 八〇
  - 八 悲しい伝説を秘めた供養様(塩成) ..... 八一
  - 九 白旗をおそれた奥の神様(塩成) ..... 八二



十 源平合戦と瀬戸(川之浜)	1009
十一 龍王様の由来(高浦)	1001
十二 さらし首(三机)	1001
十三 坊主山(大江)	1001
第六章 口頭伝承	1000

一 ミサキ神(神崎)	1000
二 おばあさんの茶碗(三机)	1000
三 鯨塚(三机)	1000
四 ハツギが滝(佐市)	1000
五 浦芸人のたたり(大久)	1010
六 於幾世里大明神と「しゃんしゃん踊り」(大久)	1011
七 平家の落人(川之浜)	1011
八 勝宮大明神(川之浜)	1014
九 血洗いの谷の由来(大江)	1014
第七章 ことわざと方言	1014

第一節 ことわざ	1014
第二節 方言	1014
第八章 地名の由来	1011



一 三机地区	1011
二 川之浜地区	1011
三 塩成地区	1011
四 大江地区	1011
五 小島地区	1011
六 足成地区	1011
七 大久地区	1010
八 志津地区	1010
九 田部地区	1010
十 神崎地区	1010

第九章 文化財	1010
---------	------

第一節 序説	1010
第二節 文化財	1011
一 県指定文化財・須賀の森	1011
二 町指定文化財	1011
三 伝統行事	1016
佐田岬半島への憶い	1010

第八編 人物……………103

年表……………105

町内の字名……………115

町内の磯名……………113

瀬戸町付近の海図……………113

編集後記

瀬戸町誌編集委員会

文書史料一覧

おもな引用文献書目

目次イラスト	口 三机八幡宮碑文 東 洋 城 句 江 山 (二宮 鴻) 書
	米沢生太郎画

第一編 自然

第一章 位置と面積

第一節 位置

一 本町の位置

瀬戸町は、愛媛県の西南端佐田岬半島のほぼ中央部、東経一三二度一六分ないし九分。北緯三三度二八分ないし二四分に位置し、東は伊方町、西は三崎町に境を接しており、南は宇和海（太平洋）に向かって開け、日振島、戸島（宇和島）、大島（八幡浜）、大分県の岬や九州山地支峰と豊後水道を望むことができる。また、海岸線は単調で、塩成・川之浜・大久地域には、白い砂浜の続く海岸美を誇り、海水浴場に適している。また、海岸線は単調で、増加している。北は伊予灘（瀬戸内海）に面し四個の深い構造性の湾入があつて、湾頭に小さな平地があり、集落を形成している。また、山口県の大・小の島々も展望できる。

瀬戸町の経度は、日本標準時（明石市）子午線の一三五度より西（約二・五度の所）にあるので、日の出・日の